

安全データシート

SDS No.1021-41080

作成日 1995年 5月 1日
改訂日 2020年 7月30日 1/6頁

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : n-Octane
提供者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
製品コード : 1021-41080
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
整理番号(SDS No.) : 1021-41080
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)
使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険・有害性の要約

GHS分類 : 引火性液体 : 区分2
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分2A
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(麻酔作用)
水生環境有害性 短期(急性) : 区分1
水生環境有害性 長期(長期間) : 区分2

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

H226 引火性液体及び蒸気
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H336 眠気又はめまいのおそれ
H400 水生生物に非常に強い毒性
H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

[安全対策]

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地しアースをとること。
P241 防爆型の機器を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

[応急措置]

P302+P352 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
P303+P361+P353 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚をシャワーで洗うこと。
P304+P340 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P312	気分が悪いときは医師に連絡すること。
P332+P313	皮膚刺激が生じた場合、医師の手当てを受けること。
P337+P313	眼の刺激が続く場合、医師の手当てを受けること。
P362+P364	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P370+P378	火災の場合、消火するために適した消火剤を使用すること。
P391	漏洩物を回収すること。
[保管]	:
P403+P233+P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに容器を密閉しておくこと。
P405	施錠して保管すること。
[廃棄]	:
P501	内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	: 化学物質
化学名または一般名	: n-オクタン
慣用名または別名	: n-Octane
濃度	: --
化学式	: C ₈ H ₁₈
官報公示整理番号	: 化審法 : 2-8 安衛法 : 設定されていない
CAS RN	: 111-65-9

4 応急処置

吸入した場合	: 新鮮な空気のある場所に移動し、安静保温に努め、直ちに医師の手当てを受けること。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	: 石鹸と大量の水で洗い流す。直ちに医師の手当てを受けること。
目に入った場合	: 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。直ちに医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぎ、直ちに医師の手当てを受けること。吐かせないこと。
暴露した場合	: 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯をすること。
急性症状および遅発性症状の最も重要な徴候症状	: 吸入により灼熱感、咽頭痛、咳、息切れなどの症状が生じる。 皮膚や眼への接触により、発赤、痛み、重度の熱傷、水疱などが生じ、経皮吸収する場合がある。
応急措置をする者の保護	: 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

適切な消火剤	: 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	: 棒状水
火災時の特有危険有害性	: 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。 可燃性の物質。
特有の消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。 消火後再び発火するおそれがある。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。 汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込めおよび浄化の方法および機材

: 適切な保護具をつけて処理すること。土砂・吸着剤などに吸着させて取り除き、蓋つきの空容器に掃き入れ、密閉して保管し、適切に処分する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

: 火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。
アンプル開口時には保護眼鏡及び保護手袋を着用し注意して切断する。

安全取扱注意事項

: 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
使用後はアンプルを適切に廃棄すること。

衛生対策

: 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではない。
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

保管

適切な保管条件

: 保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。
容器は直射日光を避け、防爆型冷蔵庫(2~10℃)に密閉して保管する。

避けるべき保管条件

: 直射日光、高温、火花等を発生する場所、混触危険物質との接触

技術的対策

: 換気により場所で容器を密閉し保管する。日光から遮断すること。
火気厳禁。

混触危険物質

: 強酸化剤、強酸、火源の近くに保管しない。

安全な容器包装材料

: ガラスアンプル等

8 ばく露防止及び保護措置

設備対策

: 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、目の洗浄および身体洗浄のための設備を設置し、その場所を表示する。
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

管理濃度

: 設定されていない

許容濃度

日本産業衛生学会

: TWA 300ppm, 1400mg/m³

ACGIH TLV

: 300ppm

OSHA PEL

: 500ppm

保護具

呼吸器の保護具

: 保護マスク

手の保護具

: 不浸透性保護手袋

目の保護具

: 保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

: 保護衣・保護長靴

適切な衛生対策

: マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。

9 物理的及び化学的性質

物理状態

: 液体

色

: 無色

臭い

: 特異臭

融点/凝固点

: -56.5℃

沸点または初留点

: 126℃

可燃性

: データなし

爆発下限界及び爆発上限界

: 0.8%(下限)~6.5%(上限)

引火点

: 13℃(タグ密閉式)

自然発火点

: 206~220℃

分解温度

: データなし

pH

: データなし

動粘性率

: 0.7373

溶解度	: 水に不溶
溶媒に対する溶解性	: エーテルに可溶、ベンゼンに混和。
n-オクタノール／水分配係数	
log Po/w	: 5.18
蒸気圧	: 1.33 kPa(20℃)
密度及び/または相対密度	: 0.7
相対ガス密度(空気=1)	: 3.90
粒子特性	: 該当しない
<hr/>	
1 0 安定性及び反応性	
反応性	: 適切な保管条件下では安定。
化学的安定性	: 適切な保管条件下では安定。光によって変質するおそれがある。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	: 日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源
混触危険物質	: 強酸化剤、強酸性物質
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素
<hr/>	
1 1 有害性情報	
急性毒性(経口)	: データ不足。
急性毒性(経皮)	: データ不足。
急性毒性(吸入：蒸気)	: データ不足。
急性毒性(吸入：粉じん、ミスト)	: ラットのLC50値 (4時間) として、118mg/L (PATTY (6th, 2012)) との報告。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	: ボランティアによる試験において、前腕部に1時間、太腿に5時間適用した結果、適用部位に充血、炎症、着色等が生じ、熱感や痒みを伴った (PATTY (6th, 2012)) との報告がある。5時間適用では水疱形成が見られたが回復性を示したと記載されている (HSDB (Access on July 2014))。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 本物質の眼刺激性の報告は得られなかったが、皮膚刺激性で区分2とされている。また、本物質は炭化水素であり、軽度-中等度の眼刺激性を有し、回復性の眼傷害を生じさせる可能性があるとの記載がある (HSDB (Access on July 2014))。
呼吸器感作性	: データ不足。
皮膚感作性	: データ不足。
生殖細胞変異原性	: データ不足。
発がん性	: データ不足。
生殖毒性	: データ不足。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: ヒトにおいては、鼻、喉に刺激性を有する (ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012)、HSDB (Access on June 2014))。また、高濃度ばく露で麻酔作用 (ACGIH (2001))、(PATTY (6th, 2012))、痙攣 (HSDB (Access on June 2014)) の記載がある。ラットに本物質0.2 mLの吸入ばく露 (詳細記載無し) で心停止、呼吸麻痺、痙攣、窒息、死亡、マウスに31mg/Lの吸入ばく露では横位、44 mg/Lで反射消失、マウスに6,600-13,700 ppmの吸入ばく露で麻酔、マウスの16,000 ppm、32,000 ppmの吸入ばく露で呼吸停止 (産衛学会許容濃度の提案理由書 (1989)、PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2001)、HSDB (Access on June 2014)) の報告がある。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: データ不足。
誤えん有害性	: 本物質は動粘性率が0.7373 (計算値: HSDB (Access on June 2014)) に記載の粘性率及び密度 (各々25℃) より算出) の炭化水素であること、ヒトで誤嚥による吸引により炭化水素化合物に共通して化学性肺炎を生じるとの記述 (HSDB (Access on June 2014)) がある。
<hr/>	
1 2 環境影響情報	
水生環境有害性 短期(急性)	: 甲殻類 (ミシッドシュリンプ) の96時間LC50 = 0.1 mg/L (SIDS, 2010)である。
水生環境有害性 長期(慢性)	: 急速分解性があり (馴化していない下水汚泥中で10日間に70%が生分解した等の試験結果より急速分解性を示す (SIDS, 2010))、魚類 (メダカ) の初期生活段階試験のNOEC = 0.028 mg/L (環境庁生態影響試験, 1998) である
生態毒性	: データなし。
残留性・分解性	: データなし。
生態蓄積性	: データなし。
土壤中の移動性	: データなし。
オゾン層への影響	: 当該物質はモントリオール議定書に掲載がなく、オゾン層破壊物質に該当しない。

1 3	廃棄上の注意	
	残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 なお上記方法による処理が出来ない場合は都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
	汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。
1 4	輸送上の注意	
	国際規制	
	海上規制情報	: IMOの規定に従う。
	UN No.	: 1262
	Proper Shipping Name	: Octanes
	Class	: 3
	Sub Risk	: --
	Packing Group	: II
	Marine Pollutant	: Not applicable
	航空規制情報	: ICAO/IATAの規定に従う。
	UN No.	: 1262
	Proper Shipping Name	: Octanes
	Class	: 3
	Sub Risk	: --
	Packing Group	: II
	国内規制	
	陸上規制	: 道路法、消防法の規定に従う。
	海上規制情報	: 船舶安全法に規定に従う。
	国連番号	: 1262
	品名	: オクタン類
	クラス	: 3
	副次危険	: --
	容器等級	: II
	海洋汚染物質	: 非該当
	航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
	国連番号	: 1262
	品名	: オクタン類
	クラス	: 3
	副次危険	: --
	等級	: II
	緊急時応急措置指針番号	: 128
1 5	適用法令	
	毒物及び劇物取締法	: 非該当
	労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No.115 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号) No.4-3
	化管法	: 非該当
	化審法	: 非該当
	消防法	: 危険物第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類) No.2
	船舶安全法(危規則)	: 引火性液体類(危機則第3条危険物告示別表第1) No.1262
	航空法	: 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1) No.1262
	海洋汚染防止法	: 有害液体物質 X類物質(施行令別表第1) No.6 個品運送 P (施行規則第30条の2の3、国土交通省告示) No.1262
	水質汚濁防止法	: 非該当
	大気汚染防止法	: 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)【揮発性有機化合物】
	土壌汚染対策法	: 非該当
	廃掃法	: 非該当
	オゾン層保護法	: 非該当

1 6 その他の情報

引用文献等

ezSDS、ezCHRIC 日本ケミカルデータベース株式会社
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
化学品安全管理データブック、化学工業日報社
16918の化学商品、化学工業日報社(2018)
航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。